

アイデアいっぱい楽しくリ・ファッション

なかむら けいこ
環境ジャーナリスト・環境カウンセラー 中村 恵子

私たちの家庭では

ここ数年、衣類ファッションが消耗品化している状況が展開されているが、もともと、私たち日本人は、衣類一つひとつを大切に扱い、なるべく捨てずに最後まで使用し続けようと（排出抑制ーリデュース）、傷んだら補修（リペア）し、着れなくなったなら寸詰や、継ぎはぎや、寸法伸ばしで補正（リフォーム）し、デザインが古くなったら作り直し（リメイク）て、長く着用するのが当たり前の生活であった。

いよいよ着用できなくなれば、お下がりなどで人に差し上げたり、リサイクル店に売却するなどしてきた。これらは、再使用（リユース）に位置づけられる。また、布を袋物や雑巾等他のものに再生したり、回収業者や自治体の古布回収に出してフェルトや工業用雑巾などに再利用

（リサイクル）してもらうなど、衣類・古布の再使用、再利用は、生活に根付いたものになっていた。

手助けしてくれる街のリフォーム店

家庭で手に負えない衣類の高度、煩雑な「お直し」は、街の「寸法直し」、「洋服リフォーム屋」さんで、衣類の持ち主のアイデアを形にする手助けをしてくれている。筆者の住む街（北海道伊達市）にある、衣類の3Rの力強い味方を紹介する。

「ファッションリフォーム」（写真1）は、1972年に開店した。はじめは洋服仕立てを行っていたが、しだいに手持ちの服、昔の服を今風に作り直したり、着物から洋服を作り直し（リメイク）てほしい、着れなくなった服を着れるように寸法を直してほしい（リフォーム）、補修（リペア）してほしいという要望が増え、主要な業務になった。特に2003年こ



写真1 「ファッションリフォーム」店構え



写真2 「ファッションリフォーム」作業風景



写真3 ワンピースの袖を取りジャンパースカートに

のがあっても、新品の洋服を買っていたようであるが、最近では昔のものは品がよいとあって、自分でデザインしてリメイクを楽しんでいるようです。安物に飽きたようです(写真3)と語る。

「リフォーム・アイ」(写真4)は、「お直し」専門店として大手スーパー内に2001年から開業。長谷川店長によると、リメイクがここ数年増加しているという。「形見を大事に着たい」「愛着品を着続けたい」「たんすの肥やしになっている着物を利用したい」(写真5)というのが持ち込む理由だそうだ。

リフォーム店ではないが、街の衣

ろから、リメイク、リフォームの需要が増加しているという。オーナーの十良澤さん(写真2)は「景気のよい1970～80年代は、昔のもの



写真5 帯と着物からリメイクした服

類・古布の3Rに貢献しているのが、NPO法人「伊達市手をつなぐ育成会」作業所「ふきのとう」だ。30歳～72歳の所員が、主要業務のクッキー作りの傍ら、街の人から寄せら

れる古布を利用し袋物(写真6)を作成し、自立生活の一助としている。

衣類の3Rの知恵を継承しよう

これらの取材により、人々が衣類・古布を大事に扱おうという気持ちは衰えていないことを知った。もったいない精神健在である。

しかしながら一方では、使い捨ての衣類、消耗品としての衣類が氾濫しているのも現実である。

かつては、どの家庭でも、補修用の針箱、ミシンは常備され、継ぎはぎ、補修用の布は袋や風呂敷に包まれ、ボタンやフックは瓶や箱に入れられ保存されていた。その日本人の



写真4 「リフォーム・アイ」店頭



写真6 地域から寄せられた布で製作販売される袋物

知恵を継承していこうという動きも出てきた。その一つが、2009年に設立された一般社団法人リ・ファッション協会の活動である。リペア、リフォーム、リメイクをリ・ファッションと定義し、2010年7月には「第1回り・ファッションコンテスト」なども開催され、新しい視点で衣類

の3Rを楽しみながら、循環型社会構築に貢献しようというものである。(http://www.refashion.jp 参考)衣類・古布を利用してきた日本人の来歴をもう一度再構築する新しい潮流がうまれつつある。

新しい服を買うなら「素材」に注目！

京都府立大学 生命環境学部 准教授 やま かわ 山川 はじめ 肇

手持ちの衣類や古着を活用すれば環境への影響は小さくて済みます。とはいえ、やっぱり新しい服も欲しいもの。それではどんな服を選べばよいのでしょうか？

そんなとき注目したいのが「素材」です。衣類の環境への影響を調べてみると、素材によって結構違います。ということで、「素材」についてちょっと調べてみました。

■ 拡がるオーガニック・コットン

肌触りのやさしい天然繊維、コットンですが、実は農薬が大きな問題になっています（囲み記事参照）。そこで選びたいのが「オーガニック・コットン」です。オーガニック・コットンとは、3年間農薬や化学肥料を使わない農地で、農薬や化学肥料を使わないで栽培された綿花のことです¹⁾。最近、その生産量は大きく伸



オーガニックコットンのシャツ（プリスティン）
写真提供：(株)アバンティ

びていますが、それでも世界のコットン生産量の1%にもなりません²⁾。

それではオーガニック・コットン製品はどこで買えるのでしょうか？

例えばオーガニック・コットンの認証機関「NPO法人 日本オーガニック・コットン協会」のホームページ¹⁾の会員メンバーリストなど参考